

## 第7章

## 海ごみを調査しよう

## 「海ごみ・マイクロプラスチックを調べる」

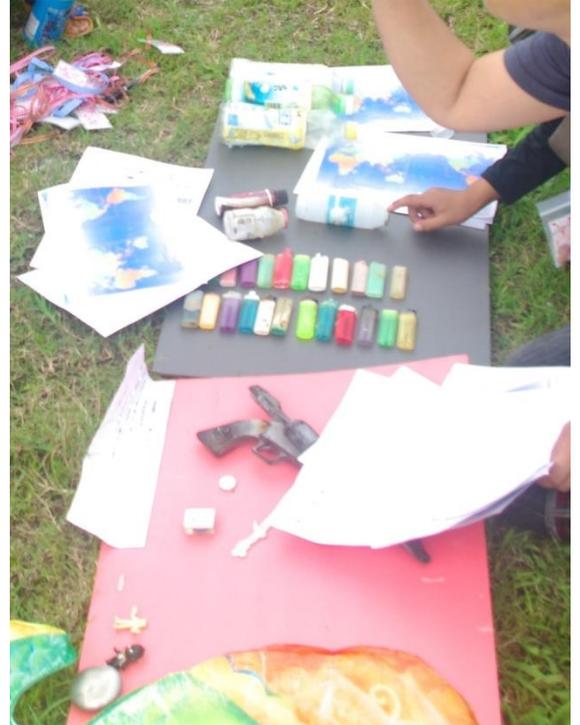
## 1. 海のプラスチックごみ

海のプラスチックごみが社会的に大きな問題になっています。

海岸を歩くと、貝がらや木の実など、さまざまな宝物を見つけることができます。その中に、おもちゃやライター、ペットボトルなど、たくさんのゴミが見つかることがあります。

海ごみの中でも多いのは、プラスチックごみです。クラゲやウミガメは、レジ袋などのプラスチックをエサと間違えて食べてしまうことがあります。中には、外国語が書かれたペットボトルなども見つかることもあります。

海ごみのほとんどは、陸の生活の中から出されたごみです。ごみのポイ捨てやごみの投棄だけでなく、ごみ置き場の管理不十分などごみの回収中にも発生します。こうして陸で発生したごみは川を通じて、海に流れ着きます。海岸にながれつくゴミは、海全体のゴミのほんの一部です。多くのものは海の中をただよい、さまざまな形で海の生き物を危険にさらしています。



天草の海岸でひろわれた海ごみ



天草でのビーチクリーンアップの様子



外国語が書かれたペットボトルのゴミ

# 第7章 海ごみを調査しよう 「海ごみ・マイクロプラスチックを調べる」

## 2. マイクロプラスチックとは

自然界に流出したプラスチックは自然には分解されず、紫外線で劣化し、波にもまれて小さくボロボロになっていきます。こうして小さなかけらとなり、5mm以下になったプラスチックが、マイクロプラスチックです。これらは細かくなっても自然に分解されることはなく、数百年の間自然界に残り続けると考えられています。マイクロプラスチックは、海洋プラスチックごみの劣化から発生するだけでなく、洗顔料や歯磨き粉などに入っているマイクロビーズや、プラスチックの原料であるレジンペレット、フリースなどの合成繊維の洗濯などによっても発生しています。



小さくボロボロになった海洋プラスチックごみ

マイクロプラスチックは、最後は海に流れ着き、海の中で有害化学物質を吸着すると言われています。マイクロプラスチックが、有害化学物質を海の中に拡散する運び屋になっているとも言われているのです。この有害化学物質を吸着したマイクロプラスチックを、魚などの海洋生物がプランクトンなどの餌と一緒に誤飲・誤食してしまうことが、社会的に問題となっています。

### コラム：大阪府や近隣県市町におけるマイクロプラスチック問題への取り組み

大阪湾に面する1府2県17市3町で構成された大阪湾環境保全協議会(※1)では、プラスチックゴミの行方について楽しみながら学習できるすごろく、「プラスチックの旅」～プラスチックゴミの行方を知ろう～を作成しています。以下のサイトからすごろくを印刷することもできます (<https://www.osakawan.jp/195/556>)。



出典：大阪湾環境保全協議会

ペットボトルやレジ袋、食品のトレイなど、私たちの生活にとっても身近で便利なプラスチックを捨てたあとにどこに行くのか、どのようになるのかをすごろくで体験し、海ごみとなるプラスチックを減らすために「自分たちができること」について遊びながら考えることができるゲームです。

また、大阪府ではマイクロプラスチック実態を把握するため、大阪湾の南北2か所で調査を実施し、大阪府のホームページ

(<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=40368>)にて結果を公表しています。

※1：大阪湾の保全と創造を図ることで、良好で快適な環境を享受することのできる社会の実現を目的に、環境の保全と創造に関する啓発、情報の収集及び提供を行っている団体です。

# 第7章 海ごみを調査しよう 「海ごみ・マイクロプラスチックを調べる」

## 3. 海ごみの対策

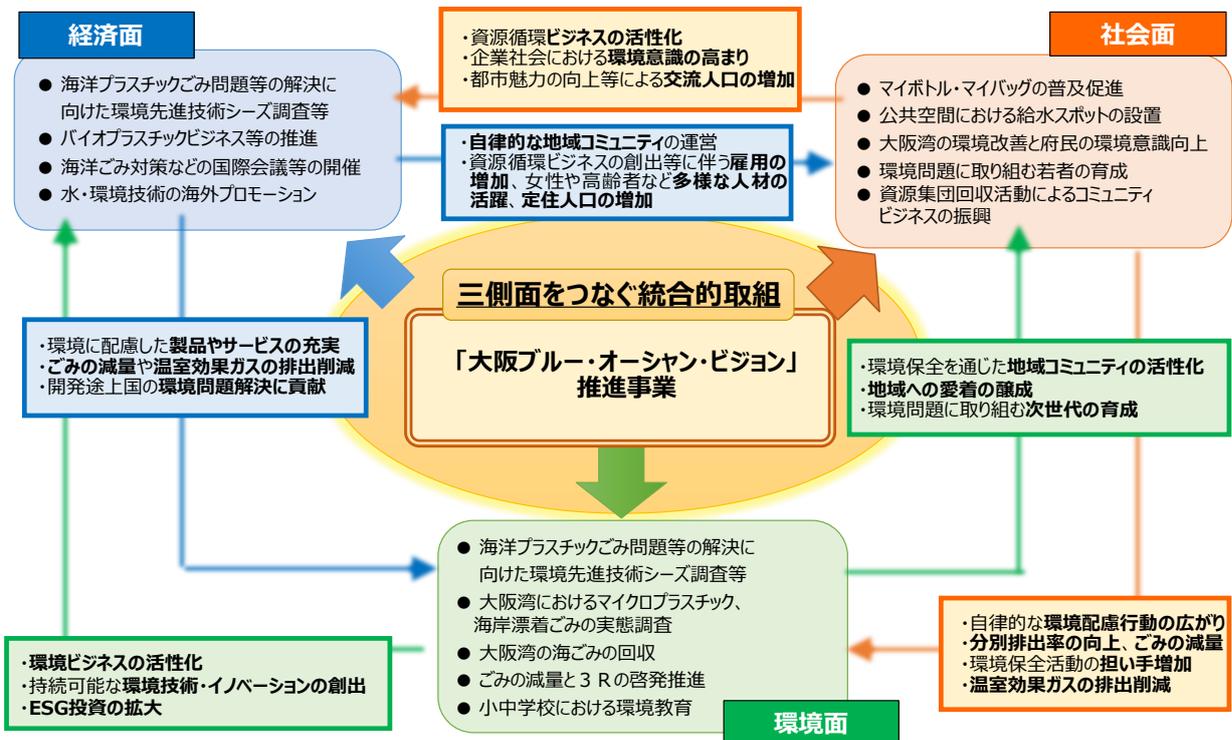
海ごみ問題が地球規模の課題となる中で、海ごみを減らすために様々な対策が取られ始めています。2020年7月には、日本全国でレジ袋の有料化が始まりました。コンビニやスーパーに行くたびに「マイバック持っていますか？」と聞かれるようになりました。

また、海ごみを活用したアート作品にする取り組みも世界各地で話題になっています。靴や洋服、時計、アクセサリなどの材料として海洋プラスチックから原料を取り出して活用する取り組みもあります。スポーツメーカーのアディダスでは、海洋汚染を防ぐため海岸などで集めたプラスチックごみをリサイクルした素材「プライムブルー」を使った運動靴やトレーニングウェアを発表しました。

こうした取り組みの積み重ねで、多くの人を使い捨てプラスチックの利用について考え、ライフスタイルを見直すきっかけになることが期待されています。

### コラム：大阪府市、民間連携で取り組む海洋プラスチック問題

2019年6月に行われたG20大阪サミットでは、「海洋プラスチックごみ問題」を主要テーマとして議論し、大阪発の「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を掲げ、以降、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにする推進プロジェクト実施しています(下図)。そのひとつとして、2020年7月17日に大阪府・大阪市のSDGs未来都市の共同提案が選定し(府市共同提案が選定されるのは全国初)、そのうち特に注力する先導的取組みとしてプラスチックごみ対策を掲げています。



出典：大阪府



# 第7章 海ごみを調査しよう 「海ごみ・マイクロプラスチックを調べる」

他にも、おおさかの府市町・組合・事業者・団体が連携した取り組みを紹介します。

- ・おおさかプラスチックごみゼロ宣言
- ・おおさかプラスチック対策推進ネットワーク会議
- ・エコバスツアーやおおさか3Rキャンペーン、広報物の作成やイベント出展など府民への啓発活動(右図)
- ・多様な主体と連携し取り組んでいる「おおさかマイボトルパートナーズ(下図)」



環境イベントにおける  
海洋プラスチックごみ問題の啓発

## マイボトルの利用啓発



咲洲こどもEXPO2020



スポGOMI大会 in いずみおまつ2020

## 給水スポットの普及



水色スイッチ  
(大阪市水道局)

## 効果的な情報発信



ロゴ・POP・のぼりの作成と活用



## パートナーズ会議



出典：大阪府

本コラムは、2021年3月18日に行われたATC海洋WEEKセミナーで講演された「大阪府におけるプラスチック問題に関する取組み」資料等を参考に作成しました。その講演内で、大阪湾でも陸由来のゴミが多く7割ぐらいが河川由来で、流れ出てしまったものは回収するしかないのが現状で、協力体制を整えて回収されていると話されていました。一方、海にたどり着いて分解が始まるようなプラスチックの開発等にも取り組んでいるようです。今後、おおさかの取り組みの成果や発展が楽しみです。

●参考文献：

大阪府「エネルギー政策課（事業一覧ページ）」HP  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/eneseisaku/shokai.html>

大阪湾環境保全協議会HP  
<https://www.osaka-wan.jp/>

大阪府・大阪市「大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進」  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyoteian/2020sdgs\\_pdf/presentation/5losaka.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyoteian/2020sdgs_pdf/presentation/5losaka.pdf)

天草・海の冒険サポーターズテキスト

第7章「海ごみ・マイクロプラスチックを調べる」資料集編

■発行：天草海部 ■企画・制作：浪崎直子・正角雅代・野間英樹 ■執筆：浪崎直子

■協力：一般社団法人J E A N、しかたに自然案内、大阪府エネルギー政策課

※本テキストは、2020年度地球環境基金の助成を受けて作成しました。

※本テキストでは、オリジナルを改変しての利用、有償配布、素材の流用を禁止します。

